

仙北市総合教育会議 会議録

開催日時 令和元年7月4日(木) 午後4時00分

開催場所 仙北市役所 角館庁舎 西側庁舎2階 第3会議室

出席者

(構成員)

| | |
|------------------|------|
| 仙北市長 | 門脇光浩 |
| 仙北市教育委員会教育長 | 熊谷徹 |
| 仙北市教育委員会教育長職務代理者 | 安部哲男 |
| 仙北市教育委員会委員 | 坂本佐穂 |
| 仙北市教育委員会委員 | 橋本勲 |

(市長部局)

| | |
|--------|------|
| 仙北市副市長 | 倉橋典夫 |
| 総務部長 | 阿部慶太 |
| 総務課長 | 朝水勝巳 |
| 総務課主事 | 小林佳織 |

(教育委員会)

| | |
|----------------|-------|
| 教育部長 | 戸澤浩 |
| 教育次長 | 三浦政喜 |
| 教育次長兼教育総務課長 | 浅利美智子 |
| 北浦教育文化研究所長 | 米澤孝子 |
| 教育総務課課長補佐兼管理係長 | 小林龍夫 |

欠席者

| | |
|------------|------|
| 仙北市教育委員会委員 | 細川伸也 |
|------------|------|

案 件

(1) 児童・生徒の安全対策について

(2) 学校のあり方について

阿部総務部長 ただいまから、令和元年度第1回仙北市総合教育会議を開催させていただきます。

はじめに、会議の主催者であります、門脇市長からごあいさつをお願いいたします。

門脇市長 皆さまには、お時間のないところ、色々のご協議いただきたい案件がありましてお集まりいただきました。ありがとうございます。

6月の議会が終了しましたがけれども、6月議会の中に議員の方々と私たちとの協議、意見、議論の中で、いくつか教育委員会の皆さまと一緒に検討すべき事案があったわけがあります。できるだけ早い時期に、子どもたちの安全・安心に対する対応でありますので、できるだけ早い時期に開催したいということで本日の開催になりましたこと、どうかお許しいただきたいと思っております。

また、今後の学校のあり方について、人口減少はもちろんそうですけれども、児童・生徒数の減少に対して今後の学校のあり方、この間までは皆さんと一緒に学校適正配置の議論をしてきましたけれども、さらにハード面でのあり方について、皆さま方と色々な協議を交わしたいということで、案件にさせていただきます。

重ねて申し上げますけれども、私たち行政が執行機関ということで行政を司っている市長という立場にありますけれども、教育行政というと、また1つの別の組織でありまして、教育長をはじめとした教育委員の皆さまがいらっしゃるわけでありまして、その両者の議論が子どもたちの取り巻く環境を整えていくということに他ならないと思っております。どうかよろし

く、ご審議、ご協議をお願い申し上げたいと思います。以上であります。

阿部総務部長 ありがとうございます。続いて、教育長からごあいさつをお願いいたします。

熊谷教育長 ご苦勞様でございます。昨日から、教育委員の学校訪問が始まりまして、学校、こども園も含めて訪問させていただいております。今日もでしたが、大変子どもたちが元気いっぱい、先生方も意欲を持って授業や、こども園では遊びを中心とした学びが行われていて、生き生きとした姿を見させていただき、私たちも嬉しく思っているところでございます。今日は、そのことにも関わる子どもたちの安全対策や学校のあり方についてという協議案件でございますが、皆さま方からご意見をいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

阿部総務部長 ありがとうございました。

それでは、協議案件に入りたいと思っております。本日の案件は、1つ目が「児童・生徒の安全対策について」、2つ目が「学校のあり方について」ということで提案させていただいております。ここからは、市長へ進行をお願いしたいと思っております。よろしくをお願いいたします。

門脇市長 はい。協議案件に入ります。はじめに、協議案件（1）「児童・生徒の安全対策について」であります。教育委員会から説明をお願いします。

三浦教育次長 はい。教育委員会といたしましては、配付資料1となりますけれども、「仙北市通学路安全プログラム」を平成26年7月から施行し、昨年度全国的に、これまで通学路と申しますと、どちらかといえば交通安全という視点が非常に大きかったん

ですけれども、ブロック塀の崩壊等色々なことがありまして、防災、防犯の視点が大きく関わってきました。それを受けまして、昨年度11月の仙北市通学路安全推進協議会から、仙北警察署生活安全課、仙北市スクールガードリーダー等にも入っていただきまして、防犯に対する対応を強めてきたところであります。通学路の安全点検につきましては、毎年8月に市内の小学校を2つのグループに分けまして、8月と冬に隔年でどちらかできるような形で進めて参りました。その点検を通して、対策方法等を協議しまして、安全対策を進めてきたところであります。昨年度は、県の通学路安全推進事業の推進地域に仙北市と美郷町が指定を受けまして、各小学校の通学路の安全マップの整備を昨年度進めたところであります。先日、白岩小学校の例が新聞に掲載されましたけれども、あれは昨年度までの取り組みをさらに充実させているというような動きになります。いずれこのプログラムに沿って、安全対策を進めてきたところでございます。他に各学校では、一応学校独自に見守り隊等に関わる組織を持っておりますけれども、実際に地域ボランティアが主体になっているのは、角館小学校と生保内小学校です。他はPTA主体であることが実際でございます。以上です。

門脇市長

はい。ありがとうございます。この案件を今回案件としたかった理由としては、先ほども話した6月議会で、通学路等を主な場面として全国的に非常に悲しい事案、子どもたちが巻き込まれた事案が発生しているということに、しっかりと対応しなければいけないということです。当然、仙北市教育委員会でも対応ということで、今お話しがあったとおり、仙北市通学路安全プログラムがすでにできあがってはおりますけれども、ただ、私がその時に議員の皆さま方にお話したことは、教育委員会の関係する様々な団体以外の方々、行政体として例えば、児童委員であったり集落の役員の方々であったりというような方々もいらっしゃいますので、そういう方々が日常的に子ども

たちを見守ることが大変重要なので、そういう方々も含めて地域の安全対策を講じていくということが、教育委員会だけではなくて市全体として取り組むということが重要ではないかという主旨の答弁をさせていただいて、それで教育委員会と私たちと総合教育会議で議論させていただきたいと、このような話を答弁させていただいたということでもあります。そういう答弁があったということで、もし皆さま方お気づきのことがあれば、ぜひまたご意見をいただきたいと思います。

安部教育長職務代理者の方から、所感をお願いします。

安部教育長職務代理者

今市長がお話されましたように、非常に痛ましい悲しい事件が続いておりますけれども、この市では前から、仙北市通学路安全プログラムや仙北市通学路安全推進協議会ができていて、それが機能しているということに大変良かったなと思っております。先ほどの協議会の中でもお話が出たのですけれども、交通安全につきましては、それなりの対応ができています。この仙北市通学路安全推進協議会で検討されたことが、ハード面ではすぐに実現できていないにしても、少しずつ時間をかけてと言いますか、一例を挙げると、角館中学校への通学路の一部の電柱が移動されたということもあって、機能しているなと思いました。ただ、問題は防犯の面であり、不審者対策というのはどうなっているのかなど。誰が不審者か特定すること自体の問題もありますし、そうしたことは中々教育委員会だけでは難しいなと。市全体を挙げて見守り、事件を起こさないような町の風土を醸成していくことも大事だなという話が出まして、私もそうだと思っておりますので、プライバシーの問題もありますし、防犯面の対策は中々難しいなという話は出ておりました。以上です。

門脇市長

ありがとうございます。橋本教育委員からお願いします。

橋本教育委員 先ほど三浦教育次長から説明があったように、仙北市通学路安全プログラムに基づいて点検を行って、危険箇所の改善を要することについては、時間がかかっても行っていただいているということでした。今、安部教育長職務代理者からお話があったように、不審者の対応というのは、理想的な話はあるとは思いますが、現実的には子どもの登下校に毎日誰かが付き添って歩くというのは難しいことだと思います。やはり、地域の方々の目配りや気配りが大切になってくるのではないかなと思います。それから、様々な団体・会議等あると思います。その中で、仙北市として今後どのような対策をとっていくかということをお皆さんに説明して、市を挙げて、子どもの見守りに協力をいただくことが必要ではないかと考えております。以上です。

門脇市長 ありがとうございます。坂本教育委員、お願いします。

坂本教育委員 今日、ちょうど中川小学校の学校訪問に行きましたけれども、その行く道と帰り道でバス停が気になりました。来年度からスクールバスで角館小学校に通う子どもたちのバスを待つ場所というのも、これから考えていかなければいけない課題だなということは感じました。それから、不審者対策に関してなのですが、事務局の方にも先ほどお聞きしたのですが、学校での名札の取り扱いについて気になりまして、例えば、通学路で名札を見て名前を見て声をかけられるという事案が、別の地域ですけれどもあったということを知ったことがあります。この地域での名札の取り扱いが今どうなっているのかを聞いたところ、学校で預かっているという学校もあるとのこと、朝来たら渡して帰りに預かって、校内でしか名札をつけないというようなやり方をしている学校もあるようでした。そういったことも仙北市全体として、考えていかなければいけないことかなと思っております。以上です。

門脇市長 ありがとうございます。熊谷教育長、お願いします。

熊谷教育長 先ほどもお話がありましたが、交通安全という面では、事故防止を目指した取り組みができておりますけれども、今後課題となってくるのは、今非常に問題になっている痛ましい事件や不審者についてであります。仙北市では幸いにも不審者情報は0の状態が続いております。ただ、秋田市や大仙市の方では起きているというようなことも伺っております。こういった不審者に対しての対応につきましては、学校だけでなく、地域の方々、PTAであり見守り隊でありガードリーダーであり、そういう方々に引き続きご協力をお願いしていくということは重要だと思います。

それからもう1つ、地域学校協働活動に生涯学習課を中心に非常に強く取り組んでおりまして、そういうことも含めて、やはり地域の力を大いに活用させていただいて、痛ましい事件や事故、不審者事件等起きないように、全市的に取り組んでいかなければいけないと思っております。

門脇市長 ありがとうございます。まさに皆さま方のお話のとおりで、教育委員会が所管する小中学校ではありますけれども、子どもたちを守るために、市民の方々、地域の方々の力を活用しましょうという思いで、教育行政の関係団体に限らず行政全般の地域の方々の力をお借りして、子どもたちの安心・安全を守っていくというような活動をしっかり続けていくことが大変重要だと思います。そういうことで言うと、どうか教育委員会の皆さま方から、こういう方々のお手伝いが欲しいというようなことを積極的に言っていただいて、一般行政としてはそれをしっかりと聞きして、その方々と協力体制を構築するというような役割も果たしていきたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。今いくつか出てきたお話で象徴的だっ

たお話が、名札の取り扱いについてどうするのかというお話、これは教育委員会の方でもう一度検討いただければと思います。

全市を挙げて、児童・生徒の安心・安全を守るという取り組みをさらに進めるという方向性で、この案件については、議会の方にも、こういうお話をさせていただいたということでフィードバックさせていただきたいと思います。よろしく願い申し上げます。

2つ目の協議案件に入ります。協議案件（2）「学校のあり方について」です。教育委員会から説明をお願いします。

小林教育総務
課課長補佐

はい。それでは「学校のあり方について」ということで、資料2及び資料3につきまして、説明をさせていただきます。

資料2ですけれども、教育総務課管理係と財政課との平成30年に協議した内容の資料です。「仙北市学校施設改修スケジュール（案）」ということで平成30年度にこの資料を作成してございます。学校長寿命化事業ということで、現在築後40年以上経過している学校施設を対象とした事業で、資料の事業年度で行っていききたいということの資料です。生保内小学校の長寿命化事業については、予算の計上まで現在進んでございます。平均して2カ年の事業を、生保内小学校以下、神代中学校、西明寺中学校、桧木内中学校、角館中学校、生保内中学校という建築年度に則した形の改修スケジュールの（案）でございませう。下の方に大規模改造（老朽）ということで、こちらは築後20年以上経過している建物について、公金事業で対応できる部分と老朽度合によってある程度のスケジュールを立てたものです。赤枠で令和元年6月28日に加筆してありますけれども、こちらは協議によってある程度調整された部分を赤枠と赤字で示しております。結果として、桧木内小学校の大規模改修事業につきましては、今年度現在、改修工事の入札等実施されている状況でございませう。それ以外につきましては、協議等に

よって実施年度を少し後ろにするとか、中川小学校のように学校施設がなくなることを赤枠と赤字で反映したものになってございます。

続きまして、資料3についてご説明いたします。「生保内小学校の想定児童在籍数」ということで、青網掛けの部分につきまして、子育て推進課から入学者想定ということで人数の資料をいただきまして、そちらを反映したもので、令和元年度から12年度までの想定の子童数を添付しております。現在の184名から123名程度までの減少が見込まれるということでございます。資料についての説明は以上です。

門脇市長

ありがとうございます。この案件を総合教育会議でご議論いただきたいと思った経緯について、いくつかお話しします。仙北市の人口減少、児童・生徒数の減少、財政力の悪化等いろいろな要因はあるのですが、当初計画をしたスケジュールのまま、例えば、学校のスーパーリニューアルをするということだけの必要性では、中々議会や市民の方々から理解を得られない状況がアマス。それは、先ほどお話をした要因がいくつかありますけれども、実態として今子どもたちが大変不便を感じていると、これは教育長からも強く抗議をいただいた案件でもありまして、そこは皆さま方にもご理解をいただきたいと思アマス。私たちとしては、議会に対応する時に、例えば今回の生保内小学校のリニューアルに関しても、全校舎のスーパーリニューアルということを仮に議会に説明させていただいた時に、当然財源が必要になるわけで、財源を認めていただきたいというような議論になった時に、すべての教室のリニューアルが必要なのかという話に必ずなります。今の学校のあり方というものがそのまま将来、例えば、起債であったり補助金であったりの年数の間にどれくらいの子童数・児童数になっていくのか、見極めはどうなっていくのかという話に必ずなります。極端な話をすると、例えば、これは生保内地区の話ではないにせよ、小

学校と中学校を一緒にする考え方はないのかという話になります。そういうことの1つ1つを教育委員会で徹底的に議論をして、自信を持って提案できるというところまでご議論されているか不安があったものですから、今日この場面で皆さま方にご議論いただきたいということで提案させていただきました。今まさに教育長もお話のとおり、生保内小学校も含めて、我慢に我慢を重ねてここまできた子どもたちに、なんとか良好な環境で学習をしてもらいたいと私たちも思っておりますけれども、今の生保内小学校をそのままスーパーリニューアルすることについては、必ず議論することになると思います。徹底した事前協議を行った上でこの計画に取り組みますというところまで、ぜひ皆さま方から再度ご議論いただきたいということです。これが、人口減少や生徒・児童数が減少していくということに一定の歯止めが何らかの形であるとする、また話は別になるかもしれませんが、この先数年間の児童・生徒数の推計も出ている状況もありますので。だけれども、現状でこれだけの児童数があるのだからこの不都合な環境を我慢してもらおうというわけには当然いきませんので、そういう議論も踏まえた上で、これぐらいの規模のリニューアルが必要ではないかというところまで議論していただきたいと思います。私の認識では、今までの中では、それほど深い議論をしてこなかったのではないかという私自身の反省がありまして、教育委員会の皆さまと協議させていただきたいという、そういう場面があります。

熊谷教育長

はい。この総合教育会議の前に、教育委員会の協議会を開催させていただきました。そして、実際の図面と計画等も提示して、教育委員の皆さまから確認していただきました。非常に性急でありましたけれども、1時間40分ほど議論させていただいたところです。その中で、短時間ということもありまして方向性まではいかなかったですけれども、皆さんの思いは伺いま

したので、その辺をもう一度お伝えいただきたいと思います。

門脇市長 はい。そうすれば、安部教育長職務代理者から、先ほどの議論も踏まえてお願いします。

安部教育長職務代理者 今、門脇市長のお話を聞きながら思ったのは、全体的にはそのとおりだと思いました。ただ、教育委員会の反省にもなるんでしょうけれども、そういう議論をしてこなかった、足りなかったというのが私たちとしてもあり、大変申し訳ないと思っております。そういう意味でも、これから何十年先のことを見通したりリニューアルというものを考えた場合に、様々考えなければならぬことがたくさんあるわけで、今まで議論がなかったということ踏まえると、私個人としては、教育委員会、教育委員にもう少し議論する時間が欲しいというのが正直なところではあります。反対とかそういうことではなく、反対するとかしないとか以前の段階です。ただ1つだけ思っているのは、今学校訪問をしてきて、実は生保内小学校は、建てられた昭和50年はまだ合併しておりませんでしたから、近隣では最も近代的な建物で私たち町民も誇りに思えるような立派な校舎でした。今学校をまわってみると、小学校のイメージというものが大きく変わって、建物がしっかりと建っていればいいという時代ではなくて、建物を通して子どもたちにやる気とか意欲を与えるような環境が、学校の建物のあり方ではないかと感じます。西明寺小学校の環境とか見せてもらおうと、子どもも先生も夢を持てるような学校なわけです。今のままで単純に建物の改修という形にはしたくないなというのが正直な気持ちです。いずれにせよ少し時間が欲しいなと思います。その時間というのは、いつまで許されるのか確認をお願いしたいと思います。

門脇市長 橋本教育委員、お願いします。

橋本教育委員 学校のあり方についての検討ですけれども、平成28年に学校適正配置検討委員会で議論して、ある程度の方向性は示されております。それに基づいて、去年は中川小学校と桧木内中学校については、適正配置について意見交換会を行ったところですが、それ以外の学校については存続をするという理解で私はおります。その中で今年度は、国のエアコンの補助事業が出てきて、仙北市では、生保内小学校を除いて他の小中学校については、その補助事業を活用してエアコンの工事および取り付けということになりました。その中で生保内小学校については、その段階で長寿命化スーパーリニューアルを活用して改修するので対象事業からは外して、長寿命化の中でエアコン設置をしていくことに決めております。令和元年度で実施設計も予算化されておりますので、色々な考え方はあるかと思っておりますけれども、ぜひ早い段階で生保内小学校については、長寿命化事業での改修が必要ではないかと私は思います。他の学校については、まだ時間がありますので検討することはやぶさかではないと思っておりますけれども、生保内小学校は当初の計画どおり進めさせていただきたいというのが私の意見です。

門脇市長 ありがとうございます。坂本教育委員、お願いします。

坂本教育委員 先ほどの安部教育長職務代理者の意見と同じなのですが、私自身としてもスーパーリニューアルに関して、知識が非常に少なかったということを反省しております。どのようにスーパーリニューアルされるのかというようなことも、もっと具体的に聞いて一緒に考えていかなければいけなかったことではなかったかと思っております。明日、生保内小学校の学校訪問があります。生保内小学校は毎年学校訪問しておりますが、そういう目で視察をしていなかったもので、明日しっかりと視察して、また考えていきたいと思っております。このお話があまりにも急な話で、私自身も考える余裕がなく今は何も言えないことをお許し

ください。

門脇市長 熊谷教育長、お願いします。

熊谷教育長 先ほど教育委員会で議論させていただきましたけれども、少し性急であったために、もう少し時間をいただきたいということ。それから、教育委員全員が生保内小学校のスーパーリニューアルで良い校舎ができるものだという思いでいたわけです。それがこういった形で様々な事情が出てきて、私たちは教育委員として、他校とも比較をしたりするわけですがけれども、神代小学校や西明寺小学校など素晴らしい校舎が建っておりますので、生保内小学校の子どもたちにも今より子どもたちがさらに活発に活動できるような、学校生活が楽しくなるような校舎にしてあげたいなという思いであります。もう少し時間をいただいて、私たちももっと議論を深めて、財政的な面や議会の皆さまの意見も十分に伺いながら、より良い方向を目指したいと思っております。

門脇市長 ありがとうございます。橋本教育委員のお話のとおり、今まで計画がなかったわけではなくて、学校適正配置計画で角館の2校と西木の2校について、西木の2校についてはもう少し時間をかけましようとなっていて、角館の2校については来年4月から統合ということで、子どもたちの環境づくりに大きな前進だったと思いますけれども、その他の学校については今の形での存続というのはそのとおりなのですけれども、その学校の存続自体にどんな夢を描けるかという議論は、まだなかったのではないかと私たちは思っているということです。できる限り早い時期にスーパーリニューアルを実現しなければいけないという橋本教育委員のご指摘は、まったくそのとおりであります。安部教育長職務代理者のご意見に少しだけお答えできるとすると、昨年度に基礎的な調査を行っておりまして、スーパーリ

ニューアルの補助金を活用するというところでスタートしている関係もあって、この調査自体が補助事業と考えて結構ですけども、今年に実施設計を組んで、実施設計が終了次第工事にかかるというこの一連の流れで補助事業ということになるのですけれども、私の議会の皆さまとのやり取りや水面下での動きの中では、今の計画のままでいくと中々厳しい状況があります。これは議会のことを言っているわけではなくて、市民の方々に対してしっかりとしたスーパーリニューアルの理想をお出しすることが中々時間的には厳しいのかなという思いがあって、一方では、先ほどお話したとおり基礎的な調査には着手しているわけですから、安部教育長職務代理者のお答えからすると、県、文科省との協議は当然必要ですけども、令和元年度は議論をするという時間で確保したいと。実施設計は、明確なビジョンがなければ実施設計を発注できませんので、例えば、そのビジョンをつくるという時間を今年度中に確保することができれば、1年ずれるような形で来年度に実施設計に着手することができる。しかし、さっき言ったとおり国の流れとしては、元年度を除かないで進めるという状況があったと思いますので、これについては、より良い学校づくりのための議論が必要だという判断があるということをお話すれば、それは秋田県教育委員会も文科省もそれをダメだという判断にはならないと私は思っております。もし皆さま方がそのようなご意見だとすると色々なお話ができるのかなと思っております。

倉橋副市長 事務方として、そうなった場合それは可能ですか。

小林教育総務 確認します。

課課長補佐

門脇市長 それが仮に可能であれば、そういう議論ができるということになります。できないということであれば、今の流れのままということになりますが、全校舎スーパーリニューアルという考

え方なのかどうかというところとか、議論する時間をいかに確保するかということになってくるかと思います。確認をお願いします。

小林教育総務 わかりました。

課課長補佐

門脇市長 倉橋副市長、阿部総務部長からもご意見をお願いします。

倉橋副市長

はい。この議論が出てきた背景には、平成30年度の仙北市の出生者数があるのですけれども、88人という数字が3月頃から市内の色々な会合に流されまして、実際その数字は違ったのですけれども、とてもショッキングな数字としてかなりの市民の方に伝わっていたようなのです。市の方で確認したところ、最終的には98人ということでしたけれども、初めて、年度内に生まれた子どもの数が100人を切るということのようです。これからもこの現象が続くのか、市としてもきちんと見極める必要があるのですけれども、仮に100人だとすれば、仙北市でないもっとコンパクトな市町村であれば、そこに小学校1つ、中学校1つあれば十分に足りる数字です。そのことを踏まえると、今仙北市は小学校が7校で中学校が5校あり、それをこのまま仙北市としては、学校適正配置のことはありますけれども、このスーパーリニューアルの内容を今の校舎のままで全部スーパーリニューアルというのは、ちょっと厳しいというのが市としての考え方です。そういうことがあって、今教育委員の皆さんにもどういう議論が適切なのか意見を伺ったところでは、決して、生保内小学校の改修を止めるということではなくて、やらなければならないことですが、改修のスケールや内容については、どのような内容が1番適正なのかをきちんと教育委員会の皆さん、総合教育会議で議論した上で議会の方に説明しないと、説得力のあるものにはならないのかなというのが今の状況になります。当然、今まで保育園について

も、現行の保育園を存続させるということですずっと話してきましたけれども、これだけの子ども数の減少になると、それも方向転換せざるを得ない場面がくるというふうに思っております。中川小学校については、中川保育園を来年度入れたいということでそこを改修していただくようお願いするのですが、そうすると、残りの白岩小百合保育園と角館西保育園をそのまま現状のままで存続させることが市としてできるのかどうか、これは市の方でも非常に重要な課題になってくると思います。このように子ども数がこれだけ減ってくると、いろんな施策に影響が出てくるので、それをきちんと市民の方々に伝えていかなければならないし、根拠のない話ではできない状況になっているなど思っておりますので、そこはどうか教育委員の皆さんにもご理解いただきたいと思っております。

門脇市長

阿部総務部長と戸澤教育部長からもお願いします。先に、阿部総務部長からお願いします。

阿部総務部長

桧木内中学校の学校適正配置について検討していただきまして、今回は統合にならないということになりましたけれども、学校適正配置の検討委員会が終わってから、父兄の方が清流会という団体をつくりまして、月に1回、小中学校と連携して地域のために様々な活動していくということで打合せをしております。その中で、今年は小中学校の合同運動会を開催しようということで協力体制をとっております。その中でも、どうしても地元の小中学校を残していただきたいというお話がございました。ただ、実際の生徒数を見ますと、ここ5年10年の中学校の生徒数が非常に少なく、はっきり言うともこのまま維持できるのか非常に心配な状態です。その中で父兄の方から出た話については、小中学校が合併した学校というのも、教育委員会の方で検討していただくことはできないかというお話も出ておりますので、もしよければ、そういう検討もしてい

ただければと思います。以上です。

門脇市長 戸澤教育部長、お願いします。

戸澤教育部長 急に出た話ということで、そういう議論が必要だったかもしれません。ただ、前は財政的な部分ということしか私は頭になかったのですけれども、そういう部分だけではないということで、生保内小学校が今案件になっておりますけれども、保育園、小中学校、全体の根本的なところから考えなければならぬとなれば、かなりの時間がかかりますので2、3年ではできないと思います。それまで待つだけなのか心配なところではあります。事務方としては、生保内小学校には、こういうことでエアコンも少し待ってくださいとお話している経緯もありますので、できれば、生保内小学校だけは予定どおり進めていただければと思います。以上です。

門脇市長 ありがとうございます。私の気持ちとしては、昨年度行われた700万円くらいの基本的な調査事業は補助事業で行われているということで、それに付けても、学校のあり方の議論をすることなくスーパーリニューアルに着手していくことの方に大変な不安を感じているということは事実です。仮に、昨年度行った700万円の事業を一般単独事業として見る考え方もあるでしょうし、エアコンの設置についても、この議論が済むまで子どもたちに待たせるわけにはいかないからエアコン設置はしましようという議論になるかもしれない。私が思うのは、この後の小中学校のあり方について、皆さんで十分な議論を重ねる時間を見つけて欲しいという思いでありますので、他の事業に差し支えるものについては、差し支えるものが適切かどうかということ自体、1つ1つの対応として当たらなければいけないと肝に銘じて、皆さま方にできればご議論する時間をつくっていただきたいというような思いです。

他に、意見はございますか。

安部教育長職務代理者

今の話を伺って、私が、生保内小学校のスーパーリニューアルについて時間をくださいと言ったのは、1年とかそういう時間でなくて、半年くらいでも、生保内小学校のスーパーリニューアルについて考える時間が欲しいという意味で、先延ばしということではなくて、いずれはやらなければいけないことですので、やるからにはより良いリニューアルする学校をつかって欲しい、そういう議論をする時間が欲しいということです。もう1つは、同時に今後の学校のあり方ということになれば、今短い時間で結論を出せるようなことではないと思うので、それについては、教育委員会で十分に議論しなければならないと思っております。

門脇市長

はい。差し迫った判断ということになると、令和元年度の予算で、議員からも可決いただいている実施設計の予算、これは確保できているわけです。ですので、発注はできる状況にはあるのです。しかしその発注をする時に、実施設計ですので、どういう学校づくりだという明確なビジョンを教育委員会が議会を通じて市民の皆さまに説明しなければならない場面があるわけですが、その時にこのスーパーリニューアルの必要性をしっかりと市民の方々にご理解いただける内容として、説明できる内容かどうかということだと思います。仮に議会の場面でどうなるのかというと、その必要面積はどう考えたのかとか、地域との学校の関係について今まで以上の交流が必要だろうか、中学校との連携はどうなるのかとか、様々な議論が出てくると思うのですけれども、その時に私たちはどういう説明ができるのかということに対して、少し時間をいただいて議論できる時間を設けることが好ましいのではないかと、これは安部教育長職務代理者と同じ考えです。ですので、現状で1番重要なことは、どれだけ待ってもらえるかということを確認

認していただくということだと思います。必要に応じて、また早急に会議を開催させていただければありがたいと思います。よろしくをお願いします。

それでは、協議案件はこれで終了させていただいて、その他に入りたいと思います。何点かあるのですけれども、教育委員会から先にその他で何かありませんか。

教育委員会

特にありません。

門脇市長

そうすれば、私の方で相談を受けた件がありまして、ぜひ皆さま方にご検討いただきたいことがあります。

平福百穂顕彰短歌大会実行委員会の高貝実行委員長、鈴木副実行委員長からご相談があった案件であります。相談の内容として、高齢化になり運営や事務作業が難しくなっているということ、ご自身たちでも後継者を育成できなかったことに大変申し訳なさを感じているということなどがありました。しかし、仙北市の宝である平福百穂氏であることからして、絶やしてはいけない文化遺産だという考え方で、これは私も一致しているのですけれども、事務局体制として教育委員会とかにご協力いただくことはできないかというお話でした。私と佐々木生涯学習課長とでお話をお聞きしたのですけれども、私たちの方としては、官から民へということで様々な事務局体制を民間の方々へお願いしている状況があって、新たに事務局を担うことはこの流れと逆行してしまうというお話をしたところ、あちらでも十分わかっているというお話をしていました。例えば、事務局と言いながらも、作品の郵送先とか取りまとめとかを平福記念美術館でやっていただければありがたいなという話もしておりました。佐々木生涯学習課長は、教育委員会本体で、この人手不足の中でさらに事務作業が増えるということについて、私からは言えないという話もしておりました。しかしながら、平福百穂顕彰短歌大会をこのまま継続したいというのは、

私もそうでありますし多くの方々もそのように感じているか
と思います。どのような形でその事務局体制をつくっていくか
ということに対して、総合教育会議で、皆さま方から色々な意
見をいただきたいと思いますということで、この案件を持ち帰
ってきたという状況です。

熊谷教育長 今、生涯学習課の方では、地域学校協働推進本部で南教育事
務所と連携して力を入れて作業しているところでございます。
加えてさらにこの事務局となると業務量が増え、中々厳しい状
況だと思えます。ただ、平福百穂顕彰短歌大会事業についても、
何とかしなければいけないと思うのですが。

門脇市長 安部教育長職務代理人、お願いします。

安部教育長職
務代理人 高貝実行委員長の気持ちは非常によくわかります。わかりま
すが、これを引き受けるとなると、そういう文化活動をすべて
教育委員会でやらなければいけないという事態になっていく
と思えます。1つ引き受けてしまうと、あっちはやってこっち
はやらないのかとそういう議論になってくるのではないかと
思えます。様々な団体がありますが、それぞれ工夫をしながら
活動している現状もあります。

門脇市長 橋本教育委員、お願いします。

橋本教育委員 これからこういう団体が、もしかすれば増えてくるのではな
いかなと思えます。民の団体の部分は、その団体の方々に運営
していただきたいという方針でやってきたと思えますけれど
も、なくしてはいけないものが、事務的なことをやれないから
という理由でなくなっていくというのは、ちょっと考えていか
なければならぬと思えます。

門脇市長

皆さま方から色々ご意見をお伺いすると、今の流れに逆行するようなことは、長い目で見ると、むしろ市民の方々に対してあまり良いことではないのではないかと。安部教育長職務代理者も先ほどお話の中で、様々な文化団体があって、それぞれ厳しい財政状況や人員不足でありながらも頑張っている団体もあるとのことでした。そういったことも踏まえると、もう少し頑張ってもらえる方法を考えてもらった方が、この後のことを考えていくと良いのではないかと思います。こういった形でお話させていただきます。

そうすれば、この案件については、ここで審議を終了させていただきます。他にはないでしょうか。

(「ありません。」という声あり)

門脇市長

ないようですので、進行をお返しします。

阿部総務部長

色々なご意見をいただきまして、ありがとうございました。これを持ちまして、令和元年度第1回仙北市総合教育会議を終了いたします。おつかれさまでした。

(午後5時10分終了)

上記会議録に相違ないことを認め署名する。

仙北市長

仙北市教育委員会教育長

仙北市教育委員会教育長職務代理者